

# 会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	2023 年度専門学校東京テクニカルカレッジ 第 2 回建築系教育課程編成委員会
開 催 日 時	2023 年 12 月 1 日(金)15 時 40 分～17 時 00 分
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 2 階 203 教室
参 加 者	<p>&lt;外部委員:2 名&gt; (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照)</p> <p>稲村 健一(株式会社稲村デザイン建築研究所)</p> <p>吉田 修 (西松建設株式会社)</p> <p>&lt;内部委員:4 名&gt;</p> <p>杉本 安雄 (専門学校東京テクニカルカレッジ 建築監督科科长)</p> <p>野上 和裕 ( 同 建築科科长、議長)</p> <p>鈴木 昇 ( 同 建築科夜間(建築士専科)科长)</p> <p>山下 光成 ( 同 建築監督科教員、書記)</p>
	<p>&lt;系別分科会&gt;(第二部)</p> <p>1.議長挨拶</p> <p>2.前回(系別分科会)議事録の確認</p> <p>3.意見交換</p>
討 議 内 容	<p>■建築監督科・建築科 分科会</p> <p>参加者</p> <p>&lt;外部委員&gt;</p> <p>稲村 健一(株式会社稲村デザイン建築研究所)</p> <p>吉田 修 (西松建設株式会社)</p> <p>&lt;内部委員&gt;</p> <p>杉本 安雄 (専門学校東京テクニカルカレッジ 建築監督科科长)</p> <p>野上 和裕 ( 同 建築科科长、議長)</p> <p>鈴木 昇 ( 同 建築科夜間(建築士専科)科长)</p> <p>山下 光成 ( 同 建築監督科教員、書記)</p> <p>【野上】</p> <p>前回(7/25)同様、令和6年度の技術検定制度改正(主に受験資格)を受けて、各ゼネコンの動向と、それに伴う既存カリキュラムの更新又は一部変更等を行う場合における懸念事項について議論していきたい。</p> <p>【杉本】</p> <p>建築監督科のカリキュラムチャートを用いて、資格取得に対する令和5年度までの取り組み状況を説明。</p> <p>3年次(3・4期)のプレインターン1・2の科目で、2級建築施工管理技術検定(一次検定)対策講座を実施。令和5年度の取得率は100%(ただし、長期欠席者2名を除く。)であった。</p> <p>【杉本】</p> <p>建築監督科のカリキュラムチャートを用いて、資格取得に対する令和6年度の計画を説明。</p> <p>3・4期に実施していたプレインターン1・2の科目を1・2期に前倒し、1級建築施工管理技術検定(一次検定)の対策講座を行う。それに伴い2級建築施工管理技術検定(一次検定)は、2年次に受験を前倒しする方向で検討している。</p> <p>【野上】</p> <p>建築科(2年課程)の場合、1級建築施工管理技術検定(一次検定)を受験させることは非常に難しい。理由としては、一次検定が7月中旬(2期終了)頃実施されるため、1年生は合格水準に知識が到達しておらず、また、2年生は就職活動期間と時期が重なるため。</p>

【吉田】

学生が国家資格の取得を目指すことで、学習意欲とモチベーションが大きく向上する事が期待できていると感じている。

【山下】

現時点で、1級建築施工管理技士補が監理技術者補佐の業務をどの程度担っているのか？

【吉田】

新築案件のプロジェクトで、技士補が監理技術者補佐の業務を行っているという認識はない。しかしながら、建設業法で規定されている請負金額未満のリニューアル工事の場合など案件が多いプロジェクトにおいては技士補が有効的であると感じている。

技士補の有資格者であっても、新卒未経験者や経験が浅い技術者を監理技術者の補佐として現場に配属することは原則ないものと考えているが、人事採用の場面では有資格者を優遇し積極的に採用している。

【杉本】

昨今、文系大学卒業の新卒派遣施工管理技術者が増加傾向にあると伺った。現状はどのようにになっているのか？

【鈴木】

派遣労働者に対する教育制度は整備されているのか？

【吉田】

翌年度に関東エリアで10名程度、新卒派遣社員の採用を検討している。

正規雇用の技術職社員に対して行うOJT教育を新卒派遣社員に対しても実施することを検討中。

以前から派遣の施工管理技術者が現場管理業務に携わっているが、現時点では各現場・作業所ごとにOJT教育を行っている。

【稲村】

学園理念として『資格取得』と『資格取得が可能な実力を身に付けさせる』のどちらを重視しているのか？

【野上】

『技術者を目指す全ての人の夢を受け止め、高い技術力と豊かな人間性を備えたプロフェッショナルを育成し、社会に貢献します』という学園理念であることを鑑みると、後者の『資格取得が可能な実力を身に付けさせる』を重視していることになる。

【稲村】

大手の設計事務所やゼネコンでは、一定以上の役職に就くには必ず一級建築士の資格が必要である。また、公共工事の入札や経営事項審査においても資格保有者数が影響するため資格取得は重要である。

監理技術者の業務は、1級建築施工管理技士の資格で行うことができることもあり、ゼネコンの若手技術者の一級建築士試験に対する受験意欲が低下傾向にあると感じている。

建築士も施工管理技士も学科試験は、4肢択一のマークシート形式であることから、隙間時間で有効かつ効率的に学習できる仕組みやアプリ開発が今後重要になるものと考えている。

